

大阪市立市岡東中学校

元気アップ便り

元気アップコーディネーター 千葉清二

こんにちは。寒中お見舞い申し上げます。厳しい寒波がやってきましたが、体調はいかがですか。年末年始は本当に暖冬でしたね。おかげで私は初詣以外はのんびりとお正月を過ごしました。

ところで、私の好きなテレビ番組の一つに、「なんでも鑑定団」があり、よく見ますが先月の番組で鑑定士の重鎮の中島誠之助氏が、「22年の番組で最大の発見」とする、「曜変天目茶碗」が見つかったとされました。もし本物とすれば、国宝級でしょう。「曜変天目茶碗」は南宋時代（12～13世紀）中国の福建省の建窯で焼かれたもので、現在世界に3点のみで、しかもそのすべてが日本にあって、いずれも国宝です。ただ、わたくし個人としては鑑定額が2500万円とされたのは安すぎる……。たとえば、藤田美術館にあるものは、藤田平八郎が入手したときは、現在の価格に換算すると4～5億円とされ、最高に美しいとされる「稲葉天目」ならば、換算するとおよそ16億円とされるので、今回の鑑定額は本物にしては安すぎますね～。まあ、およそ国宝などは値段がつけられないのでなんともいえませんが、真偽のほどは別として、どんなものでも「大発見」はとても興味がありますね。たとえば、もう20年ほど前になりますか、神戸で松尾芭蕉の「奥の細道」の本物が発見されたときは「よく無事で」と驚きました。テレビで放映されましたが、そこには紙を何回も重ねて修正している多くの修正箇所がありました。芭蕉が何度も悩み、推敲しては訂正したことが良くわかり、「芭蕉でもこんなにも悩んだのだ」と人間らしさに触れると同時に、やはり本物のすごさを実感できました。しかし余談ですが、明治の女流文豪の樋口一葉の「たけくらべ」などは修正箇所がなく、どうしてこんなに間違わなかったのか、不思議でなりません。パソコンなら簡単に修正できますがね……。樋口一葉はひどい近視で、おそらく目を紙面に大きく近づけて書いたと推察しますが、もし間違えたら、もう一度書き直したのでしょうか？でも樋口一葉は、大変貧しい家の産まれで、文壇にデビューしてからも極貧生活を送っていましたし、当時は紙はとても高価なものでしたので、紙をたくさん使って書き直すことはできなかったと思うのですがね。いずれにしても、素晴らしい才能の持ち主の一葉が、肺結核で24歳の若さで亡くなったのは、なんとしても惜しいですね。

3年学年末テスト学習会のお知らせ

3年生最後のテストが今月の末に予定されています。中学校3年間の学習の集大成として、また公立入試の参考資料として、とても重要です。しっかり準備をして取り組みましょう。それまでも毎週木曜日に「放課後元気アップ学習会」を実施していますので、どしどし参加してください。学年末テスト対策の日程や内容など詳細は元気アップ通信と前後して、案内を配布しますので、よく見て参加しましょう。もちろん、2年生も参加しても構いません。